

Perplexity Patents 調査レポート

作成日: 2025年11月2日

Claude

1. エグゼクティブサマリー

Perplexity Patentsは、2025年10月30日にリリースされた世界初のAI搭載特許調査エージェントです。誰でもIPインテリジェンスにアクセスできるよう設計され、複雑なキーワード検索や専門的な構文知識を必要とせず、自然言語による対話形式で特許検索を可能にします。

現在グローバルベータ版として全ユーザーに無料提供されており、ProおよびMaxサブスクリプション利用者には追加の利用枠とモデル設定オプションが提供されています。

2. Perplexity Patentsの概要

2.1 背景と目的

従来の特許検索は、正確なキーワードの組み合わせと難解な構文の知識を必要とするシステムに依存してきました。無料の検索ツールは機能が限定的で、専門プラットフォームは高額かつ大規模なトレーニングが必要でした。この障壁により、専門家以外は特許調査から実質的に排除されてきました。

Perplexity Patentsは、この状況を変革し、発明者、研究者、特許実務家、ビジネスリーダーなど、あらゆるユーザーが特許情報に簡単にアクセスできる環境を実現することを目指しています。

2.2 提供状況

- 提供形態: グローバルベータ版
- 料金: ベータ期間中は全ユーザーに無料
- アクセス方法: Perplexityのメインプラットフォーム内で直接利用可能
- プレミアムオプション: ProおよびMaxサブスクリプション利用者には、より高い利用枠とモデル設定オプションを提供

3. 主な機能と技術的特徴

3.1 自然言語インターフェース

Perplexity Patentsの最大の特徴は、自然言語による対話形式の検索です。ユーザーは「言語学習のためのAIに関する特許はありますか?」や「2024年以降の主要な量子コンピューティング特許は?」といった質問を投げかけるだけで、関連する特許コレクションと回答を得られます。

3.2 引用優先アプローチ

Perplexityの既存の「引用優先」アプローチを特許検索に拡張し、インラインビューアと原文書への直接リンクを提供します。検索結果は、信頼できる情報源とAI駆動のインテリジェンスをシームレスに統合し、特許調査を快適で効率的なものにします。

3.3 エージェント型AIシステム

Perplexity Patentsの中核技術は、最先端のエージェント型リサーチシステムです。AIリサーチエージェントが複雑なクエリを具体的な情報検索タスクに分解し、これらのタスクはエクサバイト規模の検索インフラストラクチャ上でホストされる特別な特許知識インデックスを使用して実行されます。

エージェントは並列検索タスクを実行し、グローバルな特許データベースから構築された専用インデックスを操作します。結果は大規模な文書合成を使用してキュレーションされ、1つの回答に対して数十から数百の文書を参照することもあります。

3.4 セマンティック検索能力

厳格なキーワードマッチングでは見逃されがちな決定的な先行技術を発見できます。例えば、「フィットネストラッカー」を検索すると、従来のツールではその正確な用語を含む特許のみが表示される可能性がありますが、Perplexity Patentsでは「アクティビティバンド」「歩数計ウォッチ」「健康モニタリングウェアラブル」などの関連結果も発見できます。

3.5 会話形式の継続的検索

会話のように機能し、より深く掘り下げたい場合や異なる発明を比較したい場合は、フォローアップ質問をするだけで済みます。最初からやり直す必要はありません。システムは関連するフォローアップトピックも提案し、新しい研究の方向性を明らかにします。

4. 従来の特許検索システムとの違い

4.1 アクセシビリティの革命

従来のシステム: - 正確なキーワードの組み合わせが必要 - 複雑なブール演算子や構文の知識が必須 - 専門的なトレーニングが必要 - 高額な専門プラットフォームへの依存

Perplexity Patents: - 平易な自然言語での質問が可能 - 専門的な構文知識不要 - 直感的なユーザーインターフェース - ベータ期間中は無料で利用可能

4.2 検索手法の進化

従来の特許検索は「シングルターン」アプローチ、つまりクエリを送信し、ドキュメントとマッチングして結果を返すという方式に依存していました。

対照的に、エージェント型AIは「マルチターン」アプローチを採用し、人間の賢明な情報検索と統合の方法をよりよく表現します。問題を構成し、データを収集し、検索戦略を設計し、複数のクエリで反復しながらより良い結果に向かって進みます。

4.3 概念理解vs.キーワードマッチング

従来のツールは厳格なキーワード文字列と不透明なインターフェースに依存していましたが、Perplexity Patentsは意味論的アプローチを提供し、異なる用語間で概念を認識します。これにより、表現の違いによる先行技術の見逃しのリスクが大幅に軽減されます。

5. 対象ユーザーと具体的な利点

5.1 エンジニアとR&Dチーム

活用場面: - 機能のスコーピング時に関連発明の広範かつ迅速な概観が必要 - 比較可能な技術や競合アプローチの調査 - 発明開示書の作成準備

利点: より広範で迅速な関連発明、比較可能な技術、競合アプローチの視点を得られます。

5.2 特許実務家と社内弁護士

活用場面: - 先行技術調査の高速化 - ランドスケープマッピングの加速 - 自由実施調査 (FTO) の実施

利点: 先行技術の再現性を向上させ、ソースとリンク付きのクリーンな監査証跡を維持できます。専門的な検索ツールのオーバーヘッドなしに、方向性を示す証拠を得られます。

5.3 創業者とプロダクトリーダー

活用場面: - 新規性と競合動向の方向性の証拠が必要 - 投資判断のためのIP評価 - 市場参入前の特許状況確認

利点: 専門的な検索ツールのオーバーヘッドなしに、新規性と競合ダイナミクスに関する方向性のある証拠を得られます。

5.4 研究者と学術機関

活用場面: - 研究分野の特許状況把握 - 技術トレンドの分析 - 学際的な研究の先行技術調査

利点: 特許文献と学術論文を統合的に検索でき、研究の全体像を把握できます。

6. 特許文献以外の情報源調査能力

6.1 包括的な情報源

現実のイノベーションは単一の枠に収まることはほとんどありません。今日の先行技術は、ブログ、動画、さらにはコンピュータコードなど、ますます多様で非伝統的な形式でカプセル化されています。Perplexity Patentsでは、特許文献の検索だけに限定されません。

6.2 検索対象となる情報源

必要に応じて、Perplexityは学術論文、公開ソフトウェアリポジトリ、および新しいアイデアやブレイクスルーが最初に登場するその他の情報源も調査します。

- 世界中の特許データベース
- 学術論文（ピアレビュー論文含む）
- 公開ソフトウェアリポジトリ（オープンソースコード）
- ブログ記事
- 技術文書

6.3 この能力の重要性

トレンド把握: 技術の発展初期段階から動向を追跡できる

関連技術の発見: 特許として登録される前の段階で、新興技術を特定できる

全体像の理解: トrendを捉え、関連技術を発見し、全体像を把握できます。これは、特許文献だけでは得られない包括的な技術理解を提供します。

7. 他のAI特許検索ツールとの比較

7.1 市場における位置づけ

Perplexity Patentsは、AI搭載の対話型検索で知られるPerplexityが、悪名高く複雑な知的財産の世界に参入したものです。

7.2 主要な競合ツール

市場には複数のAI搭載特許検索ツールが存在します：

NLPatent - 特許文書で特別に訓練された独自の大規模言語モデルを使用し、概念的類似性でランク付けします。80%の時間短縮を実現し、他のプロバイダーが見逃す高度に関連性の高い結果を発見します。

IPRally - 知識グラフと教師あり深層学習AIを組み合わせた新しい検索方法を提供します。高い透明性があり、検索結果がなぜ関連性があるのか、AIがどのように技術と先行技術を理解しているかを確認できます。

PatSnap - 10年以上にわたってIPとイノベーションの交差点に位置し、包括的なIP戦略ワークフローを提供します。

Derwent Innovation (Clarivate) - 76の特許庁からの全文、109の管轄区域からの書誌および法的状態データを持ち、1億6800万以上の出版物を含みます。編集チームが各タイトルと要約を書いており、高い再現性、説明可能性、エンタープライズの信頼性のバランスが取れています。

Octimine - ブール手法とAI駆動のセマンティック検索を組み合わせ、1億5000万以上の特許と2億1000万以上の非特許文献ドキュメントにアクセスできます。70%の検索品質向上を実現しています。

7.3 Perplexity Patentsの差別化要因

1. 真の対話型エクスペリエンス Perplexity Patentsは、厳格なキーワード文字列と不透明なインターフェースを、自然言語クエリ、引用優先の回答、およびオリジナル文書への直接リンクに置き換えます。

2. エージェント型アーキテクチャ エージェント型リサーチシステムは、ユーザーのクエリを個別の情報検索および統合ワークフローに分解します。これらのワークフローの結果は、AIシ

システムのさらなる探索を導くために使用され、最終的に追跡可能な研究記録と権威ある情報源文書に裏付けられた回答の策定につながります。

3. アクセシビリティ重視 特許検索を専門家の独占的領域から、質問を持つすべての人の手に移すことを約束し、IPインテリジェンスを民主化します。

4. 無料アクセス ベータ期間中は全ユーザーに無料で提供されており、他の多くの専門ツールとは対照的です。

5. 多様な情報源の統合 特許データベースだけでなく、学术论文やオープンソースリポジトリも検索対象に含めることで、より包括的な技術理解を提供します。

7.4 制約と課題

データソースの透明性: Perplexityは、出版社からの一連の注目度の高い著作権訴訟と、最近ではRedditからのデータ収集方法に対する厳しい監視の中で、そのAIエコシステムを拡大しようとしています。

専門性の深さ: 既存の専門ツール（DerwentやPatSnapなど）は、長年の業界経験と編集された高品質データベースを持っています。Perplexity Patentsは新参者として、これらの確立されたプラットフォームとの差別化を図る必要があります。

ベータ版の制限: 現在はベータ版であり、完全な機能セットや長期的な価格設定はまだ不明確です。

8. 特許調査分野への影響

8.1 民主化の実現

包括的な特許調査が、専門家だけでなく、より広範なIPおよびイノベーションコミュニティに初めて利用可能になりました。これにより、以下の変化が期待されます：

- 中小企業やスタートアップの特許調査能力向上
- 個人発明家の参入障壁低下
- 教育機関での特許教育の促進
- 技術移転の加速

8.2 実務への影響

弁護士が自由実施調査を実施する際、すべての同義語を事前に列挙する必要がなくなります。R&Dチームは分類スキームをマスターすることなく、隣接スペースを探索できます。創業者、起業家、投資家は、平易な言語で特許関連の質問をすることができます。

8.3 技術革新の加速

Perplexityの副最高技術責任者であり、2025年5月まで米国特許商標庁の主任AI責任者を務めていたJerry Maは、ローンチ後に受信トレイが「爆発している」と述べました。これは、特許実務コミュニティからの高い関心を示しています。

8.4 業界標準の変化

問題は、エージェント型AIが特許実務を変えるかどうかではなく、コミュニティがそれをどのように採用するかです。

- 自然言語検索が標準になる可能性
- AI支援による特許出願書類の品質向上
- 先行技術調査の徹底化
- 特許審査プロセスの効率化

9. 将来の展望と課題

9.1 製品ロードマップ

Perplexity CEO Aravind Srinivasは、「これは、弁護士、医師、金融サービス、学術研究者のために構築する多くの垂直的な深い研究体験の最初のもので」と述べています。

次に予定されているのは： - **Perplexity Scholar:** 学術研究に焦点を当て、Google Scholarの直接的な競合となる製品

9.2 持続可能性と収益化

現在はベータ版として無料提供されていますが、将来的な料金体系は： - 基本的な無料版は継続提供される予定 - ProおよびMaxサブスクリプションでの拡張機能 - エンタープライズ向けオプションの可能性

9.3 技術的課題

精度と信頼性の向上: AIが生成する結果の正確性を継続的に改善する必要があります。

カバレッジの拡大: より多くの管轄区域と言語への対応が求められます。

専門機能の追加: 先行技術分析、新規性チェック、クレーム比較、広範なランドスケープ研究に特に価値があります。これらの機能をさらに強化する必要があります。

9.4 法的・倫理的課題

著作権問題: Perplexityは出版社からの著作権訴訟に直面しており、データ収集方法について説明責任が求められています。

データプライバシー: ユーザーの検索クエリや発明アイデアの機密性保護

AI倫理: AIによる推奨結果のバイアスや公平性の確保

10. 結論と提言

10.1 総合評価

Perplexity Patentsは、特許調査の分野における画期的なイノベーションです。自然言語インターフェース、エージェント型AI技術、包括的な情報源統合により、特許インテリジェンスのアクセシビリティを劇的に向上させました。

主な強み: - 直感的で使いやすいインターフェース - 高度なAI技術による意味論的検索 - 無料アクセス（ベータ期間中） - 特許文献以外の情報源も含む包括的な検索

課題: - ベータ版であり、長期的な安定性が未確認 - 著作権やデータプライバシーに関する懸念 - 確立された専門ツールとの競合

10.2 推奨される使用法

初期段階の調査: 新しいアイデアの迅速な先行技術調査に最適

トレンド分析: 技術分野の全体像を把握するために有用

補完ツールとして: 専門的な特許調査の前段階として活用

教育目的: 特許システムの理解促進と学習ツールとして

10.3 今後の注目点

- ベータ版から正式版への移行とその際の料金体系
- 機能拡張と精度向上の進捗
- 業界での採用率と実務への影響
- 法的課題への対応
- Perplexity Scholarなど新製品の展開

特許インテリジェンスを普遍的にアクセス可能にすることは、技術知識をより見つけやすく、理解しやすく、信頼しやすくすることで、イノベーションを民主化します。Perplexity Patentsは、この目標に向けた重要な一步となる可能性を秘めています。

参考文献

1. Perplexity Patents公式リリース文書 (2025年10月30日)
2. Axios - "Perplexity launches AI patent directory" (2025年10月30日)
3. IPWatchdog.com - "Agentic AI Meets Patent Search: A New Paradigm for Innovation" (2025年10月30日)
4. StartupHub.ai - "Perplexity's AI Patent Search Aims to Demystify IP for Everyone" (2025年10月30日)
5. WinBuzzer - "Perplexity Launches AI Patent Research Agent" (2025年10月31日)
6. TestingCatalog - "Perplexity launches Patents Research Agent in beta" (2025年10月31日)
7. SaasTake - "13 AI Patent Search Tools You Shouldn't Ignore in 2025"
8. ProjectPQ.ai - "Top 14 AI Patent Search Tools to Simplify Prior Art Search"
9. PatSeer - "Top 5 AI Patent Search Platforms to Watch in 2025"

免責事項: 本レポートは2025年11月2日時点の公開情報に基づいており、Perplexity Patentsはベータ版であるため、機能や提供条件が変更される可能性があります。